

児童デイサービスNEWS

めばえ

小雨の降るある日、Hくんが横を通り過ぎるスタッフの手をスッと握り、お散歩のカードを差し出しました。

以前はだまって靴を履き一人で外へ行こうとしていたHくんが、自分の意思をスタッフに伝えるという行動。自己表現の仕方を覚えたその子の成長と、日々のかかわりの積み重ねでできた信頼関係に嬉しさがこみ上げました。

初めて児童デイに来たとき泣きじゃくっていた子も、どうしていいかわからず不安になっていた子も少しずつこの場所に慣れてきました。コミュニケーションを通じていろいろな経験をして友達やスタッフとの良い関係ができていくのですね。

今では靴を脱ぎ捨て元気に部屋へ駆け込んでくる子供たちの姿に歓心しています！

いちご摘み

今年もイチゴ狩りへ出かけました。畑の畝をうまくよけながら歩く子供たち。入れ物を片手に持ち、イチゴをつぶさないように指先で優しく摘んでいました。

スタッフの服をクイクイ引っ張り、「見て、こんなに大きなのったよ！」と言わんばかりに見せてくれました。

いつもお皿にのったきれいなイチゴを見ている子供たちですが、畑で育った自然なままのイチゴを見てどう思ったでしょう!?

まごころ広場に持ち帰ったイチゴはミルクをかけてみんな一口でパクッ！イチゴが食べることが出来ない子も、この日は真っ赤に熟れたおいしそうなおイチゴをたくさん摘みました。

前もって予定が組みにくいこのサプライズ企画、次は何があるかな!?(YM)

募集

一緒に活動しませんか。ヘルパーさんを募集しています。お電話をお待ちしています。

施設所訪問を終えて



(れいんぼうワークスにて)

平成18年5月9日(火)
愛西市の知的障害者授産施設「れいんぼうワークス」と扶桑町の社会福祉法人「たんぼぼ」を訪問しました。

施設での作業の様子を見させていただいた後、施設長さんより社会に出る為の早めの準備と資金の必要性、施設不足などの説明をされました。現状を受け止めつつ「暗い気持ちになった」と参加者から感想をいただきました。

これからもこのような訪問の機会を持ちたいと思っております。

障害者の就職

厚生労働省はハローワークを通じて就職した障害者が前年度に比べると8.4%の38,882人で過去最高だと発表した。(中日新聞より)

また、障害者の就職率(就職者数/求職者数)は39.8%と最近10年で最高だったようです。

これは精神障害者が含まれるようになったからだ一宮のハローワークでは分析しています。

さらに障害者雇用促進法が18年4月から改正され法定雇用率の算定対象が拡大したことも影響しているようです。

しかし、大企業でも1.8%の法定雇用率を完全には達成しておらず、景気の回復の兆しがみられる今、社会貢献と社会的責任の立場からどんどん障害者の雇用に取り組んでもらいたいものです。

そうしないと、障害者が企業で働く為の知恵も工夫も生まれにくい。

ウエルフェア2006をみて

ずらりと並んだコミュニケーション器具。まだ、身体障害者用が多く知的障害者用は数が少ないようです。

併催行事として「こころの健康から福祉を考える」、「環境浄化など」の講演会が開催されていました。



ポートメッセなごやにて

ミニデイだよ



笑って元気

ミニデイの日は、いつも家のお庭のお花を飾ってくださるスタッフMさん。初夏の薫りがする「ガクアジサイ」が華やか。「今日はこれを書きたい」とKさん。じっと花を見つめる目は画家のようでした。やさしい、やわらかい色彩には病を乗り越えてこられ「みんなのお陰で」と繰り返しおっしゃるやさしさがにじみ出ていました。

Aさんは「昔のお嫁さんしか書けない」と言われスタッフとお嫁入りの様子などを話されながら綿帽子をかぶったお嫁さんを細かく鉛筆で描かれました。次々になつかしく回想されて、笑い声が絶えませんでした。

ボランティアさんが作られたジグゾーパズルを見て挑戦したいとおっしゃる86才のIさん。それではとスタッフと手作りパズルを作ることになりました。

Kさんの絵とIさんが描かれた絵が候補となりました。カラーコピーにかけ元を見本に。はさみで、はじめは大きめのピースに切り始めると何事が始まったのかと他の利用者さんもまわりに集まりました。ああでもない、こうでもないと言いながらも、完成すると素晴らしいパズルの完成。拍手喝采。

楽しく過ごしながら、利用者さんは手と頭を使い自然に良いリハビリを行なっておられます。今日もまた 笑った 笑った。

ふれあいサロンだよ

5月26日 ケーブルテレビの撮影取材がありました。突然のことでしたが皆さんのいつもの自然な会話、唄、ボランティアさんによるパッチワーク教室が撮影され5月27日ニュースに放映されました。毎週木曜日10時~12時の間ならどなたでも立ち寄りください。すぐにみなさんお友達になれます。

利用会員のKさんがフロール展に入選

~絵画・土の造形~

おめでとございます。

第8回フロール展

日時 6月7日~12日
10時~17:30分
会場 松坂屋本店7階

右の日程で開催されています。どうぞ、ご覧になってください。

心づれづれ

『心くばり』

(題字と文) 利用会員 澤田清敏さん

要介護5の私は、月1回の外出支援を認められて、車椅子であちこち出かけています。美術館巡りをしたり、映画館へ行ったりなどして、言わば精神的充電をしています。

そこで昨年春に、初めてJRで名古屋へ出かけて、エスカレータや電車の乗り降りには駅員がちゃんと付き添ってくれるなど、その温かい心配りには感激させられました。

ところが昨秋、名古屋のT美術館へ国宝の復元画を観に行き、いろいろと深い感銘を覚えたその帰途、最寄のH駅からJRに乗りようとした時のこと。身障者手帳を見せて切符を買い、駅員の指示のままホームへ上がる階段下へ行くと、簡易昇降機にはビニールが被せてあるし、待っても駅員が来ないので尋ねに戻ると、駅構内を出て右に曲がって行った駅裏口にエレベータがあると言うのです。

最初からそう言ってくれよ、と文句を言いつつ狭い歩道を行けども行けども見当らず、あいにく通行人もなく、道を間違えたのかもしれないとまたぞろ引き返して、駅売店で聞くと誤ってはいないが、かなり長距離であると言うではありませんか。

土地不案内と分かる車椅子への、この心くばりのなさには腹が立って、折角名画を観た感動も消え失せかけましたが、丁度その時、出会った下校中の男子高校生がわざわざ駅裏口まで同行案内してくれて、その優しい心くばりに救われて、世の中まだまだ捨てたものじゃないと嬉しく思いました。



ノリタケの森にて
澤田さん

車いすから車

最近の車は座席が高く、車椅子からの移乗には工夫が必要のようです。

右のような場合あなたならどうしますか?



原稿募集

あなたの「心に残る思い出」をお待ちしています。500字程度にまとめてお寄せ下さい。